

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：14301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23653073

研究課題名(和文)カンボジアにおける貧困層向け小口健康保険制度の実証分析

研究課題名(英文)An Empirical Study on Microinsurance for the Poor in Cambodia

研究代表者

福井 清一 (FUKUI, Seiichi)

京都大学・(連合)農学研究科(研究院)・教授

研究者番号：90134197

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円、(間接経費) 810,000円

研究成果の概要(和文)：主要な研究成果は、以下のとおりである。

小口保険プログラムへの参加決定因と、参加が家計員の健康におよぼす影響について、OLSとプロビットの連立方程式モデルを用い分析した。その結果、小口保険への加入は家計員の健康に影響をおよぼすとは言えない一方、家計員の健康状態が悪いほど小口保険に参加する確率が高いことが明らかとなった。

また、個人の選好が保険購入におよぼす影響について、危険回避的であるほどSKYプログラムに積極的に参加する傾向がある一方、時間選好については、有意な影響が認められないという分析結果が得られた。

研究成果の概要(英文)：Main results are as follows;

We examined the determinants of purchasing micro-health-insurance and the effects of the insurance on health of household members, analysing a simultaneous equation system by OLS and Probit model. From the results of analysis, we found that the worse the health condition of household members, it was more likely to purchase microinsurance, while the purchase of microinsurance did not affect the health condition. We also found that the larger the risk aversion, it was more likely to purchase microinsurance, while time preference did not affect the decision on whether the households purchased the insurance or not.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済政策

キーワード：小口保険制度 フィールド実験 カンボジア

1. 研究開始当初の背景

途上国における貧困家計のリスク・プーリングについては、従来、開発経済学の分野で、多くの研究が行われてきた。そこでは、ショックに遭遇するリスクに対応するため、自己資産の売却や金融機関からの融資以外に、インフォーマルな保険制度が多用されていることが明らかにされた。しかし、一方で、実証研究の成果は、これらの対応方法では、ショックによる所得の減少、消費水準の低下を完全にはカバーできないことを示した。

ショックに対して脆弱であるといわれる貧困層を支援する一手段として、彼らを対象にしたフォーマルな保険制度の確立が提案され、一部の地域で試験的に実施されている。しかし、現在までのところ、このような保険制度の加入率、再加入率は低く、加入者による不満も多い。

一方、カンボジア農村を対象とした応募者らの研究は、作物被害、家畜の盗難、失業などのタイプのショックに対しては労働強化や消費の節約などの手段で対応可能であるが、働き手の病気や怪我の場合には、それが困難で、インフォーマルな保険制度の利用によっても、その影響をカバーできていないことを示している。このようなケースに対応するための一手段として、小口健康保険制度の活用が考えられるが、小口保険制度の研究は、未だ途に就いたばかりであった。

2. 研究の目的

本研究の第一の目的は、カンボジアの一部地域において、すでに実施されている貧困層を対象にした GRET-SKY 健康保険プログラムを対象に、“Randomized-experiments”の手法を適用し、保険加入による家計の厚生への“Treatment effects”を推計し、フォーマルな保険制度が農村の貧困家計の厚生を高める効果があるのかを検証することにある。

また、この保険制度の場合、未だ加入率は低く、加入した経験のある家計の中には、医療の質、診療システムの不備などに不満を抱くものも多いことから、加入率を向上させるには、保険加入を規定する要因を明らかにしておく必要がある。既往研究では、加入者のリスクに対する態度、時間選好などの家計特性と保険契約の内容（保険料、サービスの内容、契約期間など）、医療機関によるサービスの質、医療機関、保険料の徴収・診療費の支払いを仲介する NGO、保険事業の監視役である保健省などの“Stakeholders”によって構成される保険システムの効率性、

社会的ネットワークを通じた当該制度の評判などが、保険加入を規定する決定因であるとされているが、これらを総合した理論的枠組みを構築した研究は皆無である。これに加え、本研究では、既存のインフォーマルな保険制度の利用、あるいは、それに影響する社会的関係資本の蓄積や社会的ネットワークの緊密さの程度が小口保険制度の利用との間に、どのような関係があるのかについても検証し、総合的な視点から小口健康保険制度参加の決定因を明らかにすることが、第二の目的である。

3. 研究の方法

平成 23 年度

この年度には、小口保険プログラムの実施主体である NGO から、タケオ州において事業を実施している村についての情報を提供してもらい、小口保険プログラム（SKY プログラム）が実施されている村の中から無作為に 4 ヶ村程度を抽出し、所得、就業形態、家族構成、土地保有、資産保有などの家計特性についての家計調査に加え、家計員の健康状態の指標である体重・身長についてのデータ、過去において農作物被害、家畜の盗難、病気・怪我などの予測できないショックに直面した際の対応方法、インフォーマルな伝統的

保険制度、家計の社会的ネットワーク、などについての情報を収集するための予備的な聞き取り調査を実施した。

1ヵ村あたり平均40世帯の標本世帯を無作為に抽出し、合計約160世帯について上記の調査を実施した。

平成24年度

前年度に調査を実施した村を含め、小口保険プログラムを導入した村12ヵ村程度、450世帯程度を選別し、前年度と同様の家計調査、身長・体重の測定、社会的ネットワークに関する聞き取り、および、家計の危険回避度や時間選好の測度を計測するためのリスク・ゲームと時間選好ゲームを行った。

また、SKYプログラムへの参加がインフォーマル保険制度におよぼす影響について分析するためのデータを入手するため、標本世帯に小口保険ゲームの被験者となるよう依頼した。

平成25年度

この年度は、前年度に収集した450世帯程度の家計調査データを用いて、所得水準、家計員の健康状態を被説明変数とし、説明変数に家計特性などのほか、小口保険への加入の有無を示す変数を加えて、計量分析を行った。

また、小口保険加入の決定因に関する分析では、小口保険プロジェクトが実施された村の資料を用いて、家計特性、医療機関の質、小口保険制度についての評判、社会的ネットワークなどを説明変数とし、質的選択法を用いた計量分析を行い、その過程で、インフォーマルな保険制度の存在と小口保険制度加入率との関連性についても検証した。

4. 研究成果

平成23年度

標本世帯のSKYプログラムへの参加決定要因に関して、Probit分析、および、危険回避

性向と時間選好が内生変数である可能性を考慮したIV Probitの手法を援用し、計量経済学的分析を行った。その結果、Probit分析では、危険回避的であるほどSKYプログラムに積極的に参加する傾向がある一方、時間選好については、有意な影響が認められないという分析結果が得られたが、IV Probitでは、危険回避的であるほど、また、近視眼的であるほど、参加を躊躇する傾向があるという、全く異なる分析結果が得られた。後者の分析は、操作変数の適性に問題があるため、暫定的な結果であるものの、個人の選好が保険購入に影響している可能性を示唆するユニークな分析結果であり、今後、より適切な操作変数を探し出すことが当面の課題となった。

平成24年度

この年度に実施された450世帯を対象にした家計調査によって得たデータの入力作業を行い、分析に必要なデータ・ベースの構築を行った。

また、前年度の調査データを分析した結果は、国際開発学会大会において報告した。

平成25年度

前年度に構築した農村家計のデータを用いて、小口保険プログラムへの参加決定因と、参加が家計員の健康におよぼす影響について、OLSとプロビットの連立方程式モデルを用い分析した。その結果、小口保険への加入は家計員の健康に影響をおよぼすとは言えない一方、家計員の健康状態が悪いほど小口保険に参加する確率が高いことが明らかとなった。

また、小口保険ゲームの結果についてのデータ・ベースを作成し、計量的な分析手法を適用し、小口保険の導入とインフォーマルな保険制度の間のトレード・オフ関係について分析を行い、平成26年度の諸学会で報告する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

福井清一、三輪加奈.2012.「カンボジア農村における家計のリスク対応 社会的ネットワークと仕送りの保険機能に着目して」『農林業問題研究』第186号、1-12頁。

[学会発表](計1件)

三輪加奈、福井清一.2012.「カンボジアにおける小口保険購入の決定因と健康への影響」, 国際開発学会、2012年12月1日、於：神戸大学。

[図書](計1件)

三輪加奈、福井清一.2014.「カンボジアにおける小口健康保険と健康の相互関係」, 福井清一編著『新興アジアの貧困削減と制度』勁草書房、第8章、187-208頁。

6. 研究組織

(1)研究代表者

福井清一 (FUKUI, Seiichi)
京都大学・大学院農学研究科・教授
研究者番号：90134197

(2)研究分担者

三輪加奈 (MIWA, Kana)
釧路公立大学・経済学部・准教授
研究者番号：00552001